

第2回 多摩市再生可能エネルギー事業化検討協議会 議事録		番号	H26 議 002
		頁	1/2
議 題	1. 第1回議事録確認と協議会構成員紹介 2. 議事・報告 ①集合住宅専門委員会 ②広報専門委員会 ③技術専門委員会 ④PPP 専門委員会 ＜意見交換＞ 3. 事務局より	日 時	2014年 7月 28日(月) 17:30～19:30
		場 所	多摩信用金庫 多摩センター支店 Win プラザ多摩センター
		出 席 者	水上貴央、浦野卓男、町井則雄、藤田道男、織田博嗣、戸辺文博、山川陽一、西川省吾、磯貝浩二、江川美穂子、秋元孝夫、武内喜則、大木貞嗣、林久美子、高森郁哉、山川勇一郎、中瀬剣正、梶川實、田中功、他（順不同、敬称略）
議 事 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回事業化検討協議会議事録（案）</li> <li>4. 多摩市再生可能エネルギー事業化検討協議会構成員名簿（案）</li> <li>集合住宅専門委員会検討業務報告</li> <li>広報専門委員会検討業務報告</li> <li>技術専門委員会検討業務報告</li> <li>PPP 専門委員会検討業務報告</li> </ul> <b>【別紙】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①再生可能エネルギーに関する管理組合アンケート</li> <li>②（同）簡易集計(速報値 2014年7月25日現在)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>③集合住宅へのアプローチについて</li> <li>④太陽光発電事業の5つのメリット</li> <li>⑤太陽光発電設備 監視システムの電波について</li> <li>⑥定期点検チェックシート・ 点検結果報告書(様式)</li> <li>⑦多摩電力太陽光発電所における 研究計画(案)</li> <li>⑧公共施設の発電所建設及び実績</li> <li>⑨公共施設の工事進捗状況(7月28日)</li> </ul>
議 事 内 容 ( 要 約 )			
<p>1. 事務局 資料を元に構成員名簿の修正報告あり、織田氏と西川氏より自己紹介あり。</p> <p>2. 議事・報告 <b>【集合住宅専門委員会】</b> 専門委員より資料に沿って、1)アンケートについて 2)オーナー別のアプローチ 3)対象マーケット 4)検討すべき課題、5)集合住宅専門委員会における検討実施事項について検討結果の報告があった。</p> <p>意見1：別紙③の小山田桜台は多摩ニュータウンではないので「周辺」と正確に書いた方が良い。 意見2：屋根の防水保証が切れる問題は、原因が特定できれば保険適用できるが、原因がわかりづらい。 意見3：雨漏りは玄人でも非常にわかりづらく、老朽化や工事など原因要素が多くあるので「そんな話を抱えたくない」と云う意識が管理組合にあるので、難しさがある。 委員長：ビジネスチャンスは大規模修繕タイミングにあるのか？それとも防水保証がネックなのか？ 専門委員：漏水を気にする度合いはまちまちで、それぞれ温度差がある。“今やろう”と言えるリーダーがいて“合意形成”ができるかどうかによる。意欲的な方を探り、どのように進めるかはケースバイケースになる。</p> <p>意見4：パネル設置の数年後に防水工事が必要となった場合、パネル移動／再設置の必要があるが、管理組合は“そうなること自体を好まない”。古いマンションでは断熱問題もあるので防水とワンパッケージにしてメリットを出すと良い。勿論、同時の方が責任関係もクリアできる。</p> <p>意見5：技術的な問題がクリアされた次の問題で、アンケートでは「中立的なアドバイス」が一番多かった。中立的なアドバイスの仕組みが作れば一歩進むのではないか。</p> <p>意見6：中立的なアドバイスは多摩エネ協になるのか。</p> <p>意見7：確固たる実績があるなら期待される。業者との間にコンサルタントや設計業者から中立的なアドバイスがあると安心感を持たれる。将来的には多摩エネ協に期待されるが、今の段階では難しい。</p> <p>意見8：中立の立場の人で多摩の場合、大規模修繕では設計管理方式を使っている。管理組合は、設計コンサルタントは信用するが、そういう方は太陽光発電には詳しくない。建築学会のメンテナンス部会などにきっかけを付けるのも一つのやり方なので、専門家組織をおけば説明ができるのではないか。</p> <p>意見9：中立的なアドバイスについては、一定の専門家チームを作ることは必要だと思う。金融機関も入り専門家集団がトータル的にコーディネートできると良い。</p>			

第2回 多摩市再生可能エネルギー事業化検討協議会 議事録	番号	H26 議 002
	頁	2/2

委員長:営業ツールだが、パッと見てこの資料ではメリットが良くわからない。例えば、マンションの資産価値がどれだけ上がるか、年間収入はどれくらいか、遮熱効果で光熱費はいくら節約できるか、など明確なメリットを具体的に示すとわかりやすい。これまでの議論を整理すると

- ・市場分析としてどこまで広げるか、大規模修繕の件数がどのくらいあるか。
- ・業務提携について、防水断熱工事業者、設計コンサルタント、管理会社、たましん、など。
- ・自己投資パターンの場合、多摩エネ協自身が中立的なコンサルテーションをするケースも。
- ・営業ツールとして、どのくらいはっきりしたメリットを打ち出せるか。

最後にアンケートについて、返信がなかった所にもう一度提出を求め、期間も2週間では短く答えにくい。集合住宅へのアプローチは重要なので、いくつか宿題がでたが、着々と進めて欲しい。

**【広報専門委員会】**

専門委員より資料に沿って、1)効果的な情報発信、2)円卓会議の開催について検討結果の報告があった。

委員長:広報の目的は、今後のために人材を育成したいのか、出資してくれる人を探したいのか、太陽光発電設備を設置してくれるマンションを探したいのか？

専門委員:多摩エネ協活動を活性化させる仲間作りがメイン、円卓会議が繋がれば良いが、あまり営業的になってしまうとよくないので、そこが課題になり迷いがある。

意見1:行政が円卓会議に入ると、行政なりのシナリオ展開も必要になる。テーマが毎回変わり、傍聴者も変わる、会議のメンバーも固定かテーマごとに専門家を呼ぶかもはっきりしていない。

意見2:管理組合理事が来るとは思えない。課題を話し合いアプローチすれば効果はあると思う。

委員長:いろいろやることも必要だが、“何をやるか”ではなく“何から始めるか”の順番を決めないといけないので、整理して次回報告をお願いします。

**【技術専門委員会】**

専門委員より、検討結果の詳細は資料参照とし、資料の「検討の進捗状況と課題と対策」にある①設置物件の評価・検証、②施工(EPC)の検討と体制の確立、③運用・管理(O&M)の検討と体制の確立、④常時非常時の電源供給システム(蓄電池)のモデル化検討、⑤発電所管理データベースの実施・検証について、資料に沿い報告があった。

質問1:①は20年間の調査をすればわかるのか？

応答1:継続的にやればわかる。メーカーによって初期値は同じでも期間が経過すると劣化することがある。しかし、劣化の原因を探ることは大変。

委員長:②については継続検討になっているが、次回までにどのあたりまでいくか？

専門委員:モジュール、パワコンについては、まだ特定のメーカーは決めていない。架台については、適切な施工方法など管理組合の関心も高いところなので、もう少し検討が必要。

委員長:③で、シルバー人材センターに定期点検ができる人はいるのか？

専門委員:これから具体的に技術者や経験者を探す。第三種の資格を持っていればよく、シルバーにも登録していると聞いているので、対面して進めていこうと考えている。

**【PPP 専門委員会】**

専門委員より、資料及び別紙⑨「公共施設の工事進捗状況」により報告があった。

委員長:関戸住宅はいつ頃になるか？

専門委員:9月中の完工を目指しているが、住民説明会があると不透明になる。

委員長:昨年度は市との賃貸契約などいろいろ詰めないといけなかったところがあったが、今年度はもう運用段階ということでしょうか？

専門委員:市の環境部と他の所管部署では情報量に差はあるが丁寧に説明して行く。運用段階では、台風のときのメンテナンスなどの細かい詰めは必要。O&Mとあわせながら覚書が必要になるかも知れない。

委員長:以上で全ての議事を終了する。公共施設の屋根貸しについては着々進んでいる。集合住宅の委員会については、すばらしいご意見を多くいただいた。市民の理解を得ながら進めるモデルを作るというレベルの高いプロジェクトを目指したい。大変だけど乗り越えれば、他の地域にも広がりのモデルである。多摩地域全体に広がってほしい。以上を委員長の総括とする。

**3. 事務局より**

- ・次回日時: 8月20日(水) 17時30分～
- 場所: 多摩信用金 多摩センター支店 階下の会議室

以上